

2024
春夏号

家庭画報 特選

人気連載

阿川佐和子
浅田真央
大原千鶴ほか

きもの
サロン

仲間由紀恵

春色きもの、
花きもの

単衣大全
付け帯のすすめ

常盤貴子

女友達と楽しむきもの



一家で祝う雛祭り



豊中・織元の西宮御治社長と女将の珠紀さん。きもの遊びのアドバイザーが大好き。お宮ではこだわりの品が見られます。

和文文化に根差した行事を大切にしている豊中・織元では、人生の節目の行事をきもの美しむことを推奨し、そのお手伝いをしています。おつきあいの長いお客様、澤田和子さんの娘・井神有希さん、2人の子

お娘さんが生まれ、5歳と1歳になったので、お雛様を飾って、雛祭りをすることにしました。

最初はお出掛けがなくなると、奈良・真野の実家へ預けたままになっていてお雛様を飾ることにした和子さんは、しまったままでも母親に申し訳ない、とあっていた順のつかえ

が取れませんでした。豊中・織元の茶室、無造作の座敷で丁寧に飾りつけ、お菓子やお茶を振舞いました。

茶室では、幼稚園でお茶を習っている珠の珠満ちゃん、父・井神佑介さんと茶室でお点前をいただきます。



春におすすめの母娘のきもの

上・薄色に染めた地色に、金銭や丁子、霞笠などの宝尽くし文様と小花文様をあしらった、朋友様の小紋。多色で彩られた可愛らしい一枚は、肩上げすれば大人になるまで着られます。下・花を濡れ染しの技法で描いた付け下げ。霞のように染めた染しの浅藍色やクリーム色の地色が、春らしい柔らかな雰囲気を感じます。

上・まだ3歳の次女・ひなちゃん、ピンクのきものに玩具文様を飛ばした白地の敷布を合わせて、活発に動く姿に、下・5歳の長女・珠満ちゃんは、織元好みの紫地に藤や菊を描いた雛飾の小紋を小雛飾りに仕立て、



大切にされてきた立派なお雛様を飾り終えたら、お菓子やお茶をお供えます。ひと息ついたところで、きものに着替えて記念写真を。幼い2人は娘やかなお雛様に興奮気味でしたが、雛菓子の美味しさに惹きつけられて、和子さんの懐いは、妻の藍染漬に雲文と純金で霞を表した付け下げで、柔らかな鳥の子色地にシルバーヘアに映えます。有希さんはクリーム地に藍の唐花を描いた訪問着で春らしい笑顔。



初めての お茶席で 一服



茶室・無端庵にて西宗社長のお点前で一服。お茶碗の扱いは完璧な瑛満ちゃんもお抹茶を味わうのは初めて。ちょっと驚いた顔に、お父様は笑みがこぼれます。いつもと違う和の雰囲気の中で楽しい刻を過ごし、家族の幸せな時間を子供たちの記憶に残す、大切な一日となりました。

豊中・織元の「喫茶去」

日時：4月18日(木)、20日(土)
① 11時00分～ ② 13時30分～ ③ 15時30分～

各席5名 参加費：2000円 場所：無端庵 豊中市本町4-7-28

心弾む春の日にゆっくりとお茶をご一服

ささやかな「茶の湯を楽しむ会」を開催します。正座が苦手な方、茶席が初めての方、お子様と一緒にという方も、小間での本格的な茶の湯をお楽しみください。

きもので
楽しむ